

## 【「2022学生研究・調査・開発活動支援」成果報告】

団体名：大庭ゼミ

代表：竹原 康平

メンバー：松林 由佳

### 1. 研究内容

女ことばの特徴は、男性に比べて、柔らかく丁寧に、あまり断定しないで、同意を求めるような話し方をするとしている。そこで、柔らかく丁寧な言葉とされる「～だわ」や「～なのよ」などの女ことばは、社会においてどのような意味があるのかを研究する。

研究方法は、日常会話とメディアで使われる女ことばについて調査し、2つのギャップについて考察する。

調査方法は、日常会話については先行研究を参考に調査する。メディアについては、私たちがよく目にするアニメとドラマの女ことばを調査する。アニメと映画を調査した理由は、私たち自身がよく目にするメディアだったため、言葉の形成に大きな影響を与えていると考えたからだ。

日常会話の女ことばでは、日本語学者の小川によると、辞書記載の男女差のある終助詞というのは、辞書の説明に「女性語」「男性語」「主に女性が使用」「主に男性が使用」などと記されているものとしている。また、実生活でその通り使われているかについては、首都圏の大学生129人を対象にした会話データを調査している。調査の結果は、多くの辞書が女性度の高い終助詞としている「わ、かしら、てよ、て、こと」の上位5語のすべてが、実際にはほとんど使用されていないということが分かった。

メディアで使われる女ことばの中で、調査したアニメでは、実状ではほとんど使われない、女ことばを話すキャラクターが存在することが分かった。映画では、仲の良い登場人物同士で会話をする際に男女関係なく中立的な話し方をすることが分かった。また、男性も女性も目上の人に対しては、丁寧な言葉である敬語を使用している。調査した映画においては、実状と同じく男女の言葉の違いに差異がないと考える。

## 2. 考察

メディアで女ことばが話されている理由について、推察する。私は、男性がイメージの中に象徴される女らしい話し方をしてほしいという願望、あるいは、それが、女性として自然であるという認識にとらわれているため女ことばが話されていたのではないかと考える。女ことばは、社会においてどのような意味があるのかについては、女性が弱く、社会的に低い位置にいることを表現し、意味していると考えた。